宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2020

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

英霊に感謝の誠捧ぐ

靖國神社で秋季例大祭
遊就館で古関裕而の展示も

東京都千代田区の靖國神社（山口建史宮司）で令和2年秋季例大祭が10月17日の清祓から始まり、18日には秋季例大祭当日祭が斎行された。新型コロナウイルス感染対策で規模を縮小しながら、参列者は真摯な祈りを英霊に捧げた。

参向する勅使＝10月18日、東京都千代田区の靖國神社

菅義偉首相は「内閣総理大臣 菅義偉」の名で「真榊」と呼ばれる供物を奉納。田村憲久厚生労働相、井上信治万博担当相、大島理森衆院議長もそれぞれ真榊を奉納し、19日には安倍晋三前首相が参拝した。「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」は、春と秋の例大祭と、8月15日の「終戦の日」に参拝しているが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため参拝を見合わせた。

秋の日差しにそよ風の吹く10月18日、境内には各地から参拝客が訪れていた。午後10時、大太鼓が鳴り響き、宮司・神職が参進し、本殿所定の座に着いた。国歌斉唱に続き本殿内陣の御扉が開かれ、海の幸、山の幸が供せられ、宮司は神前に進み祝詞を奏上し、英霊に感謝の誠を捧げた。

勅使（唐橋在倫掌典）が御幣物を奉って参向、本殿所定の座に着く。宮司は御幣物を神前に奉奠し、勅使は神前で御祭文を奏上し、玉串を奉って拝礼した。

勅使・随員下向後、「鎮魂頌」が奉奏され、宮司が玉串を奉って拝礼し、続いて特別参列者及び崇敬者総代が本殿に進み玉串奉奠した。午後3時、御幣物、神饌が徹せられ、宮司が御扉を閉じ、秋季例大祭当日祭は滞りなく修められた。

靖國神社の境内にある遊就館では、NHK連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルである作曲家・古関裕而にちなむ特別展示「作曲家・古関裕而と英霊に親しまれた歌」が行われている。

古関裕而が奉納した揮毫ぼんぼり

展示場には昭和15年に駐蒙軍の将校として出征し、現地で斃去した北白川宮永久王・陸軍砲兵少佐のコーナーがある。北白川道久・神社本庁前統理の父で、古関は「鳴呼北白川宮殿下」（作詞：伯爵・二荒芳徳）を作曲した。

古関は軍歌や戦没者に対する思いがあったとされ、「みたままつり」に昭和56、58、59年の3度、「暁に祈る」が題材の揮毫ぼんぼりを奉納した。その3点には、山が連なる絵に曲の楽譜の最初の部分が描かれていた。

また、軍歌研究家の故八巻明彦氏の遺族から奉納された古関裕而直筆の色紙も展示されていた。「露営の歌」「暁に祈る」「若鷲の歌」「海を征く歌」「ラバウル航空隊」の5曲のイメージ画と楽譜の最初の部分が描かれている。昭和44年の古関の紫綬褒章受賞を記念して日本コロムビアから「古関裕而大全集」（LP盤7枚）が発売された際、収録曲の一部の解説を担当した八巻に古関が贈った色紙で、これらの曲は戦時中に兵士をはじめ日本中が好んで歌った。同展では各曲が作られた時代的背景も説明されている。

灯

「この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。『救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。』

また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。『アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にあります ように、アーメン。』」

（ヨハネの黙示録7：9―12）

キリスト教世界の暦は11月に入り歳末を迎える。月のはじめに信仰の模範を示した諸々の聖人を記念し、併せてすべての死者たちのために祈る。年の終わりに黙示録に記された終末のビジョンを見つめながら、新しい時代の幕開けを祈る。苦難を経た人類が幸福な未来を迎えることができるよう、今まで以上に諸々の伝統が心合わせて祈る時かもしれない。（I）

天地

わが家から車で10分ほどの丘に、1300年前、行基が開いたという古代サウナ「から風呂」がある。子供の頃から知っていたが、年寄りが行くところだと思っていたが、天地子もいつしか年寄りになったので、行ってみた▼要するに石風呂で、石造りの浴室が「あつい方」「ぬるい方」の2つあり、ジャージなどを着、頭巾をかぶり、布製の草履をはいて入る。石からの熱を防ぐため、尻の下に座布団を敷き、あつい方では毛布をかぶる人もいる。風呂代は500円▼地域の「から風呂保存会」が風呂を焚くのは木曜から日曜までの週4日、正午から午後9時まで。石室は、幅1・2メートル、高さ1・7メートル、奥行き2・7メートル。石室内でまきを焚き、炭火になったところで、水で濡らしたむしろを床に敷き、塩をまき、蒸し風呂にする。焚くのは日に2回で、それで2室ある▼焚き終わってすぐのがあつい方で、時間のたったのがぬるい方。前者の奥は150℃にもなり、毛布をかぶっても1分くらいしかいられない。後者は約100℃で、入り口近くはぬるい▼「やけどするから絶対に触らないように」と注意された壁の豊島（てしま）石（瀬戸内海の豊島で採れる凝灰角レキ岩）の発する熱線が、体の芯まで温めてくれる。5分ほどで休憩、水飲み、それを5回繰り返すと、ジャージは汗で重く、体は驚くほど軽くなった。テレビやネットで紹介され、意外と若い女性も多く、やみつきになりそう。

社説

日本の「原風景」が生きる力に

熊本県天草市のキリシタン史跡を巡ったとき、山本七平が日本的資本主義の倫理の始まりとする鈴木正三（しょうさん）の銅像に出会った。山本は、日本をつくった2人の思想家として、江戸時代前期の鈴木正三と後期の石田梅岩を挙げている。

近代資本主義の条件は個人の所有権に対する明確な意識であるとする山本は、西欧にその転機をもたらしたのはプロテスタンティズムだが、そうした宗教や市民社会の倫理がない日本では何だったのかと考え、その解を鈴木正三に求めたのである。

職業修行論

徳川家康に仕える三河武士の家に鈴木正三が生まれたのは本能寺の変の4年前で、関ヶ原の戦と大坂の陣の後、旗本になり、将軍を守る大番組に出世する。ところが、42歳の時、突然、実子重辰を伴い出家、曹洞宗の僧になった。当時、旗本の出家は禁じられており、家名断絶もあり得たが、功績を知る秀忠は「ただの隠居」と黙認し、家は養子になった重長が継ぎ、重辰は弟重成の養子になった。関ヶ原の後、正三が仏教に傾倒していったのは、戦国時代に死と向き合ってきた武士としての緊張感を、平和な時代にも保ち続けるためだったという。

正三の思想は「職業修行論」である。宇宙の本質は「一仏」であるとし、人々が「心なる仏」どおりに生きるようになれば、争いのない平和な社会ができるとした。そのためには「心なる仏」が貪欲・瞋恚（しんい、怒りや憎しみ）・愚痴の三毒に冒されないため、それぞれの仕事を修行として励むよう勧めた。

『四民日用』では、農民には「農業則仏行なり」とし、「商人日用」では商人は自らを蔑むことなく、「一筋に正直の道を学び行え」とした。この「正直」が正三の原則で、山本は「結果としての利潤は善である」という思想が日本を変えたと評価する。ヨーロッパ資本主義のベースになったのは信仰ある人たちへの信頼だが、日本では神仏を信じる人たちの正直がそれを醸成した。

その正三が天草に来たのは、島原の乱後に天領となった天草の初代代官に就任した弟の重成に、「民の心を癒やすため」招かれたからである。

重成は家康の近侍を務めた後、信州の材木奉行や上方の代官を歴任、家族は江戸に残し、各地を転任していた。1637年島原の乱には鉄砲隊長として参陣し、老中松平信綱に信任され、乱後は天草の実態調査に当たり1641年、初代代官に任じられた。軍事面は熊本藩の細川家が担当し、重成は富岡城下に住み、民政に取り組んだのである。

中世の天草を支配していた天草五人衆は肥後の南半分を支配していた小西行長の影響でキリシタンになり、30の教会があった。関ヶ原の戦いの後、小西行長は斬首され、天草は唐津藩の飛び地となるが、唐津藩寺沢家の圧制が天草の悲劇の始まりとなる。

天草の石高は2万1千石なのに寺沢検地で4万2千石とされ、石高の4～6割を納める税制から、農民は収穫のほとんどを徴収されたのだ。島原の乱の原因はキリシタン弾圧に加え苛酷な年貢搾取にある。一揆軍は3万7千人が死亡し、天草では人口が2万人から8千人に激減、社寺は焼かれ、田畑は荒れ果てた。

天草の復興のため幕府は農民の移住を促した。重成は、キリスト教に救いを求めながら破れた人々の心を再生するため、兄の正三を招き、幕府から300石の許可を得て、各地に神社や各宗派の寺を建立した。朝には鎮守の森から太鼓の音が響き、夕べには寺の鐘が聞こえるという、日本の原風景に戻そうとしたのである。仏教を日常の暮らしに生かす正三の著作の多くも、天草での経験から得たものだろう。

鈴木さま

重成は殖産にも努めたが、重税の圧迫から逃れられなかったので、再検地を行い、実態に合う石高半減を老中松平信綱に訴えた。

しかし、幕府の承諾は得られず653年、重成は建白書を残し、江戸の自邸で切腹。農民のために命を投げ出す武士が現れたのである。幕府は病死とし、養子の重辰を2代目代官に任じ、その7年後、石高を2万1千石と認めた。

これにより復興した天草の人たちは、重成の遺髪を納めた遺髪塚を築く。その地に重成を祀る鈴木神社が建立され、後に正三と重辰も合祀、やがて遺髪を分け各地に「鈴木さま」の塚が設けられた。3人の鈴木が天草で神となったのである。

今こそ光明皇后の慈愛を

法華寺の樋口教香門主に聞く

コロナ禍で注目されているのが奈良の法華寺。同寺は奈良時代、光明皇后が父藤原不比等の邸宅跡に建てた皇后宮を寺に改め、法華滅罪之寺と称したのが始まり。仏教による国づくりを目指した聖武天皇勅願の東大寺が総国分寺として建立されたのに対し、皇后ゆかりの法華寺は総国分尼寺とされた。皇后は同寺を女人成仏の根本道場とし、尼僧の仏学研鑽を勧め、女人成仏の規範を示した。当時の寺域は今の数十倍で、法華町全域に及んでいたという。

近刊の光明宗法華寺編『光明皇后御傳 改訂増補版』には皇后の事績が次のように記されている。

「皇后は、病に苦しむ人々の救済のために医療施設として施薬院を作り、貧しい人や病人・孤児など自存不能の人に憐みを施せば福果を得られると悲田院を設けた。さらに皇后は浴室で誰彼の別なく人の背中を流しているが、ある時、皇后は懶病者の入浴者も差別なく背中を流し、体の各所から出ている膿汁をご自身の口で吸い取ろうとすると、病人の体から突然出た黄金の光が浴室を照らした。病人は阿閦仏であったという。もとより伝承であるが、皇后の慈善事業の姿を伝えている」

同寺では10月24日から11月10日まで、皇后の姿を映したとされる本尊の国宝十一面観音菩薩像などが特別御開帳され、奈良国立博物館では10月24日から11月9日まで、皇后が病人に分け与えるために東大寺に献納した薬物などが出陳された第72回正倉院展が開かれた。薬物は平城京の人口の5分の1もが失われたという疫病との闘いを伝える品として入館者の関心を集めていた。そんな秋空の一日、法華寺を訪ね、樋口教香（きょうこう）法華寺門主に話を伺った。

――コロナ禍でいかがですか。

法華寺では毎年4月1日から7日まで光明皇后の大遠忌法要をしています。各地の尼僧さんたちに「こんな時だけど来られる？」と聞くと、「こんな時こそ行かないと」と言うので来てもらい、家元の献茶は見送り、拝観者は制限して行いました。

法華寺には定期的にお参りされる病気持ちの方がいて、年配の方が電車とバスで来られているというので危ないと思い、お手紙を差し上げて、4月中頃から参拝中止にしました。東大寺なども一斉に閉めましたから。その後、6月1日から再開しています。

――法華寺にはかから風呂（浴室）で光明皇后が千人の垢を流したという伝説があります。

毎年、から風呂を焚いて、寺の会員の皆さんに入ってもらい、遺徳をしのんでいますが、今年はコロナの影響で出来ませんでした。奈良時代はお風呂がなく、病院もありませんでしたので、汗を出して悪いものを出すようにしたのです。薬草を焚きしめた蒸気風呂なので、汗をたくさんかいても、サウナと違い肌はさらさらして、長い時間いても苦しくありません。やさしいお風呂で気持ちよくなります。

――光明皇后の伝統は明治になり、昭憲皇太后の赤十字活動などに受け継がれました。

歴代の皇后にとって慈愛に満ちた光明皇后は鏡で、昭憲皇太后は赤十字も皇后の仕事として始められたとうかがっています。私は光明皇后は、日本の社会福祉の第一人者だと思います。世界にナイチンゲールやマザーテレサらがおられるように、日本には1300年前に光明皇后がおられた。これは大変重要なことです。（4面に続く）

法華寺浴室の前で樋口教香門主

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二 東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話：03-6265-0852 FAX：03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL 078(882)9305 FAX 078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。（定価：本体2000円＋税）
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL 03-3813-6344 Fax 03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六,〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五,八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com